

## 平成23年内に観察したきのこたち

山川 続 (長崎県)

### (1) オオオニテングタケ? (テングタケ科テングタケ属)

期 日: 平成23年8月26日

場 所: 神崎市日の隈公園

この日は、ドライブを兼ねて、日の隈公園と金立教育キャンプ場できのこ観察を計画しました。日の隈公園に初めて来た時は、グランド広場上の小さい堤から西側の大きな池横の遊歩道、そして日の隈C.C.脇の道路を通り、頂上まで歩きました。頂上からの景色は良かったんですが、大きな成果はありませんでした。この時、グランド上の小さい堤周辺が、広葉樹林で、きのこ観察に適しているなと思いました。

そこで、南側の堤のまわりを左回りに1周しました。途中の沢沿いで、ヘビキノコモドキ、マクツバコナカブリテングタケの写真を撮りました。そして、遊歩道の右側土手の林内(図の×)で、傘の直径が23cmぐらいある、大きなきのこを見つけました。写真のように、とても大きく、ハイカグラテングタケよりも一回り大きいぐらいです。

最初、シロオニタケモドキかなと思いましたが、以前見たものとはちょっと違う感じがしました。シロオニタケモドキのツバは脱落しにくい(永続性)と書いてあります。写真のきのこにはツバがなく、内皮膜の名残が傘先端部に垂れ下がっています。大きさがとても大きいので、オオオニテングタケ?としました。

オニテングタケとの違いは、イボが周辺部においても大型になっているが、写真でははっきりしない。胞子を見比べればいいのだろうが、今年の課題にしたい。



シロオニタケモドキ	オニテングタケ	オオオニテングタケ
<ul style="list-style-type: none"><li>・ツバがより堅くて厚く、脱落しにくい(永続性)。</li><li>・成菌を過ぎると傘中央がやや窪み、小形で多数の先が尖った針のような錐状でやや長めのイボ</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ツバは傘表皮に引っ張られ、残りにくい(ツバがない)。</li><li>・柄の下部に深い割れ目。</li><li>・不定形だが角錐形褐色のイボ</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・傘の径は15cm以上に達する大型</li><li>・傘の表面のイボが周辺部においても大型。</li><li>・ツバは傘表皮に引っ張られ、残りにくい(ツバがない)。</li></ul>